

信州上田学「地域パートナー連携事業」成果報告会

# 長野大学ボランティア情報センターの 活動報告と今後の展望

2026年2月7日

長野大学ボランティア情報センター

# 目次

1. ボランティア情報センターとは
2. 信州上田学の活動の目的
3. 信州上田学の活動の報告
4. 信州上田学の活動から得られたもの
5. 今後の展望

# 目次

1. ボランティア情報センターとは

2. 信州上田学の活動の目的

3. 信州上田学の活動の報告

4. 信州上田学の活動から得られたもの

5. 今後の展望

# 現在のボランティア情報センター立ち上げまで

## ボランティアセンター

- ボランティアの斡旋
- 台風19号の災害ボランティア(2019年～)

## コロナ禍より(2020年頃～)

- ボランティア活動の縮小
- 対面での交流がなくなり、LINEグループのみでの活動へ

## 長野大学ボランティア情報センター(2023年～現在)

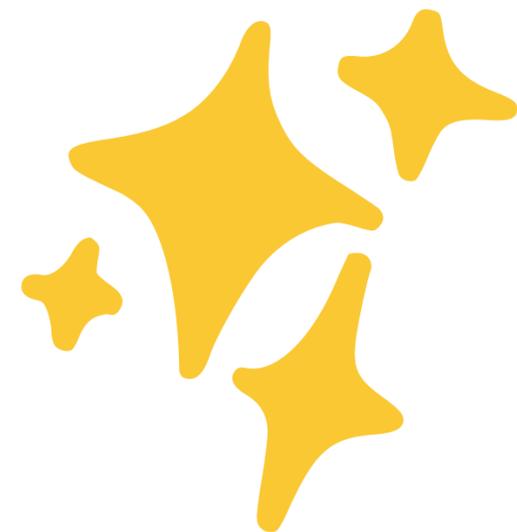
- 「ボランティア情報センター」として再立ち上げ

# 普段の活動

- ボランティア活動への参加
- ボランティア情報の発信
- ボランティア情報センター新聞の発行
- ボランティア受入先との連絡調整
- ボランティア活動を紹介するイベントの実施



現在、こちらのメンバーで  
活動しています



# 目次

1. ボランティア情報センターとは

**2. 信州上田学の活動の目的**

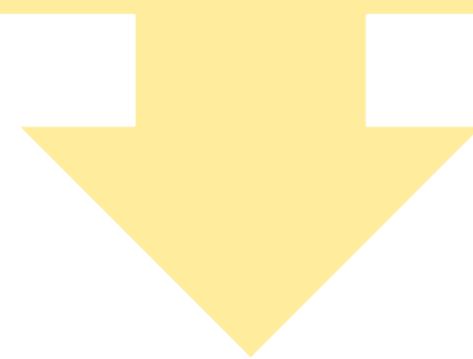
3. 信州上田学の活動の報告

4. 信州上田学の活動から得られたもの

5. 今後の展望

日々の活動を通して…

- 新たにボランティア参加を希望する学生が少ない
- 継続したボランティア参加に繋がらない
- 災害時など「いざ」という時に活動できる学生を増やしたい



大学生のボランティア意識を醸成したい

## 【活動のゴール】

- ①学生のボランティアへの関心を高める
- ②福祉に対するイメージをアップデートする
- ③いざというときの助け合いや踏み出す一歩への準備につなげる。

**ボランティアの楽しさ、やりがい、魅力を伝えたい！**

# 目次

1. ボランティア情報センターとは

2. 信州上田学の活動の目的

**3. 信州上田学の活動の報告**

4. 信州上田学の活動から得られたもの

5. 今後の展望

# 活動の概要

- ①正面玄関アンケート(7月4日~7月31日)
- ②仮装大賞(武石地域)への参加(ボランティア体験会)
- ③「ボランティアを知って・考えて・繋がる会」

第1弾:8月7日 実施

第2弾:11月12日 実施

第3弾:12月17日 実施

# ①正面玄関アンケート

掲示期間:7月8日~7月31日

対象:長野大学の学生

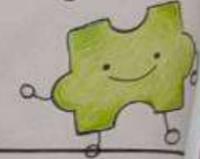
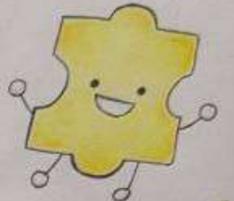
質問項目:①ボランティアに関心があるか

②ボランティアに参加したことがあるか

③ボランティアに参加してみたいかどうか

目的:長野大学の学生のボランティアへの関心がどのくらいあるのかを知る

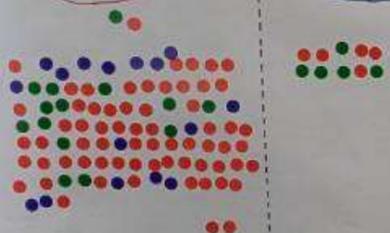
私たちは、長野大学ボランティア情報センター(ボラセン)という団体です。  
今年度は、「大学生のボランティア意識の醸成」をテーマに、信州上田学事業へ取り組んでいます。  
そこで、ボランティアの関心を調べるために、こちらのアンケートにご協力いただくと嬉しいです！  
[アンケート方法] ご自身の所属する学部のシールを、ありのままの気持ちで貼ってみてください！  
社会福祉学部：赤色、環境ツーリズム学部：緑色、企業情報学部：青色  
こちらのアンケートは、成果発表で活用させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。



ボランティアに  
関心ある？

はい

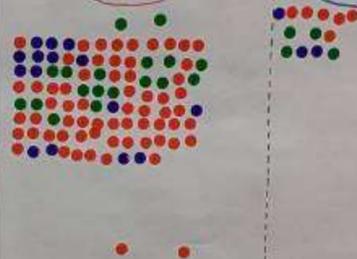
いいえ



ボランティアに  
参加したことある？

はい

いいえ



ボランティアに  
参加してみたい？

はい

いいえ



計158名の学生に  
協力して  
いただきました！

# アンケート結果(1)

## ①ボランティアに関心があるかどうか

はい:126名

社会福祉学部:78名

環境ツーリズム学部:25名

企業情報学部:23名

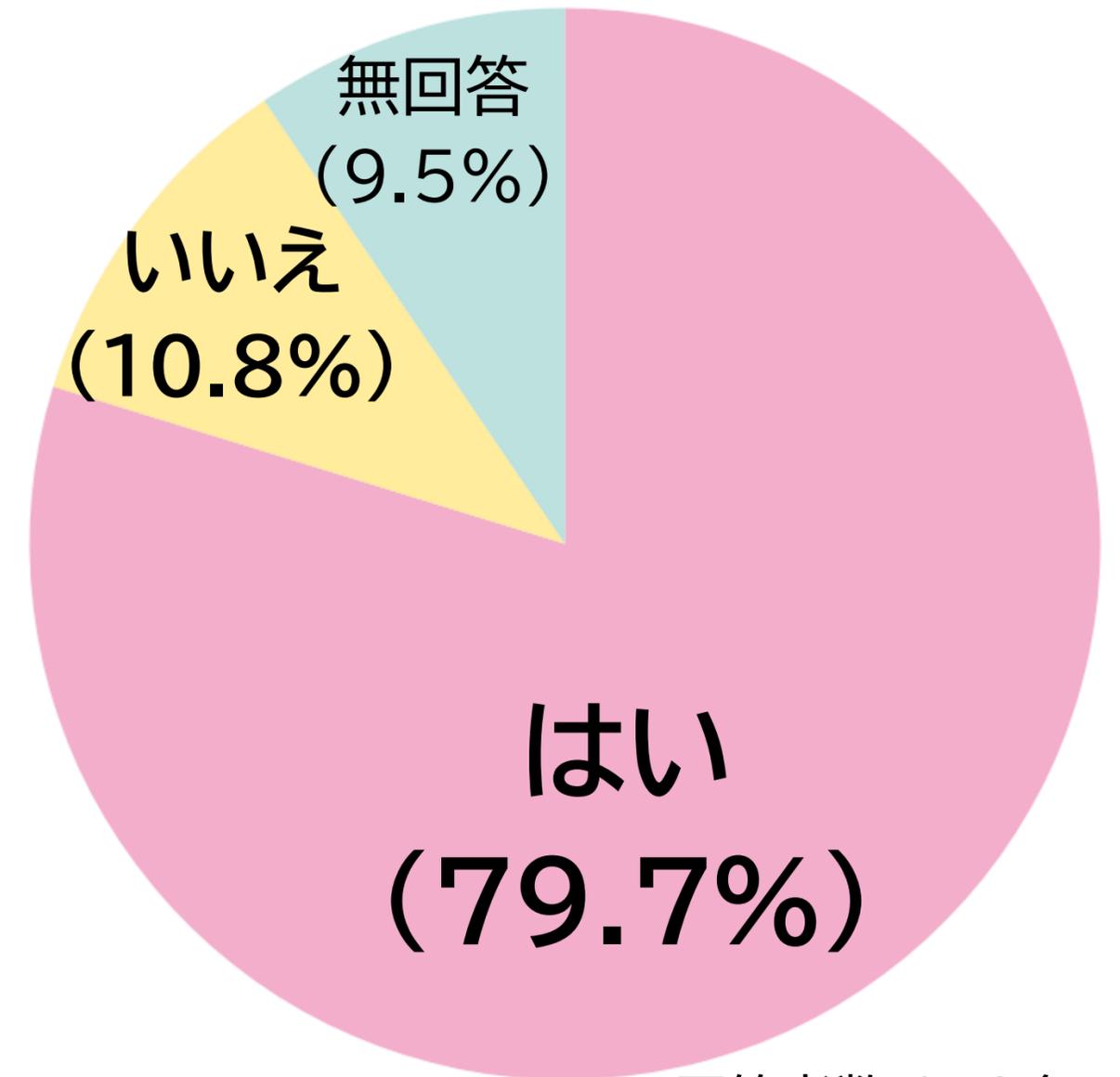
いいえ:17名

社会福祉学部:7名

環境ツーリズム学部:8名

企業情報学部:2名

無回答:15名



回答者数:158名

# アンケート結果(2)

## ②ボランティアに参加したことがあるかどうか

はい:129名

社会福祉学部:77名

環境ツーリズム学部:30名

企業情報学部:22名

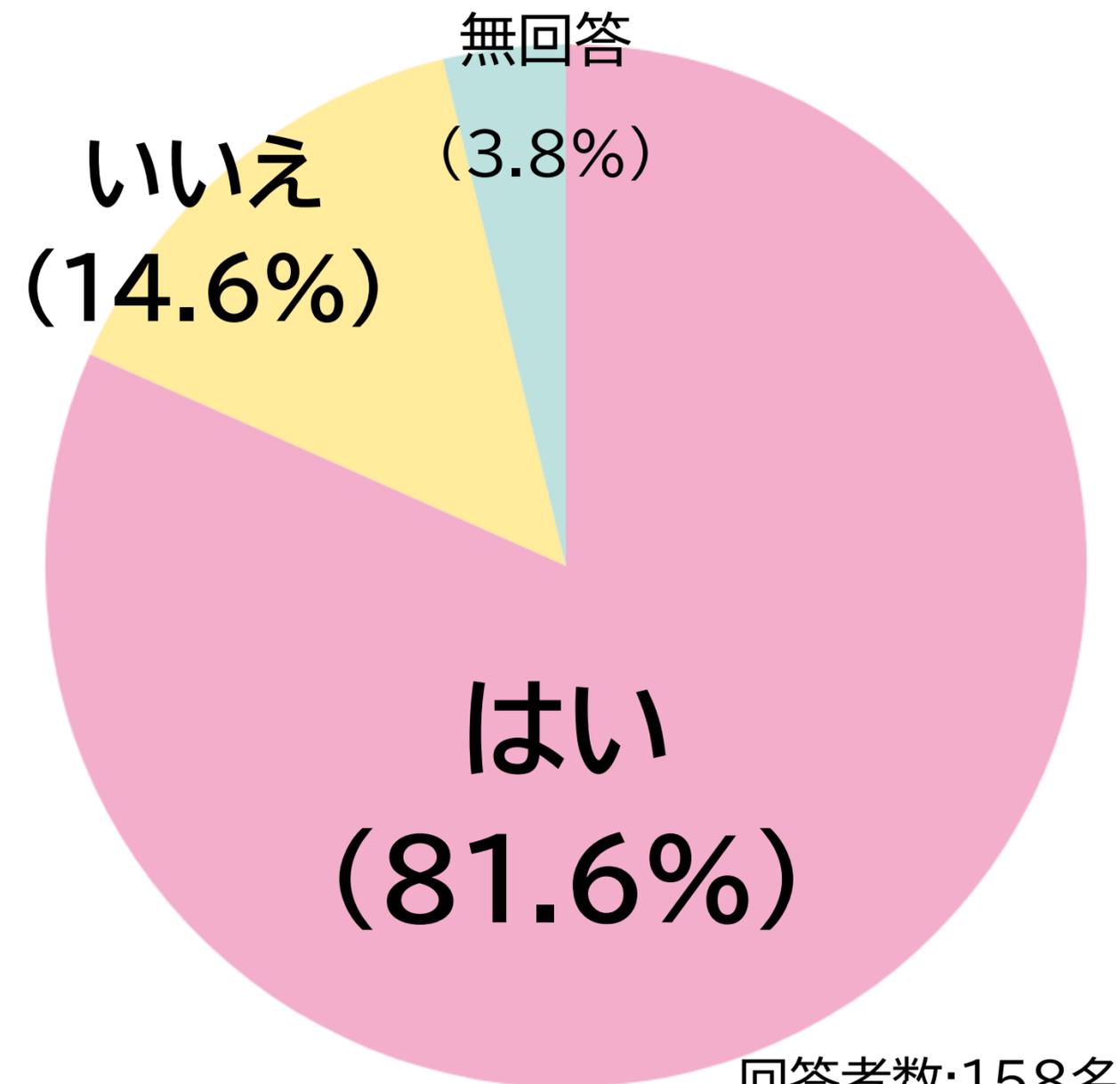
いいえ:23名

社会福祉学部:10名

環境ツーリズム学部:7名

企業情報学部:6名

無回答:6名



回答者数:158名

# アンケート結果(3)

## ③ボランティアに参加してみたいかどうか

はい:122名

社会福祉学部:79名

環境ツーリズム学部:23名

企業情報学部:20名

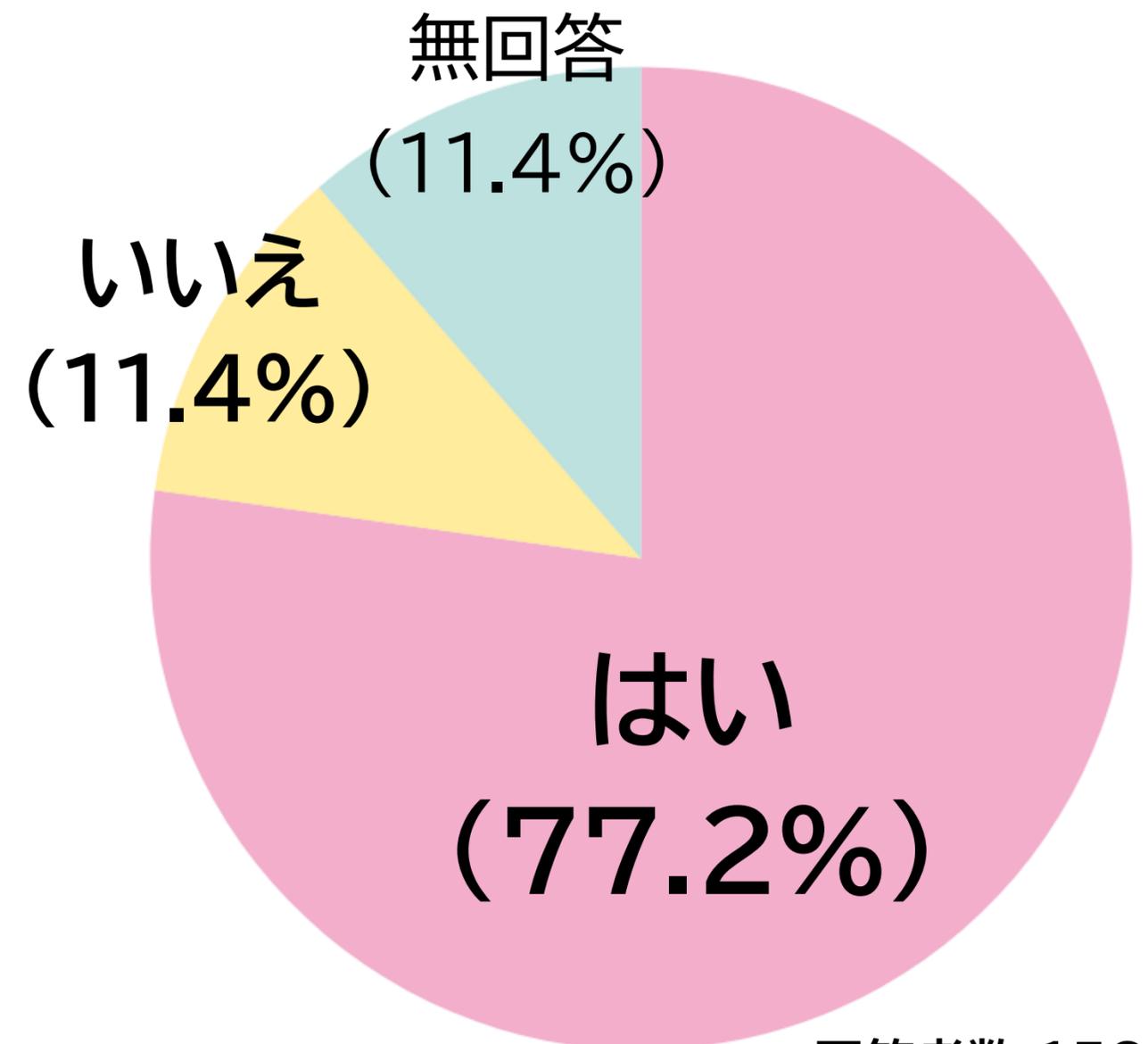
いいえ:18名

社会福祉学部:5名

環境ツーリズム学部:10名

企業情報学部:3名

無回答:18名



回答者数:158名

# アンケート結果から

- 多くの人ボランティアに関心があることがわかった
- ボランティアに参加してみたいと思う学生が多くいることがわかった
- 一方で、ボランティアに関心があっても学部によっては参加したいと思う学生が減少することもわかった

## ②武石仮装大賞への参加(ボランティア体験会)

開催日:9月13日、14日

開催場所:上田市武石地域総合センター

内容:演出や進行、会場設営、照明、出場者の補助等

裏方全般





### ③「ボランティアを知って・考えて・繋がる会」

#### 【目的】

(1) ボランティアに関心があっても「なかなか一歩が踏み出せない」学生が、ボランティアについて知ったり考えてもらうことと同時に、フリートーク等を通してボランティアに対する不安や疑問を払拭し、参加に一歩踏み出せるようにする。

(2) 今までボランティアに感心のなかった学生がボランティアについて知る機会を設け、関心を持つことや活動参加への意識醸成に繋げる。

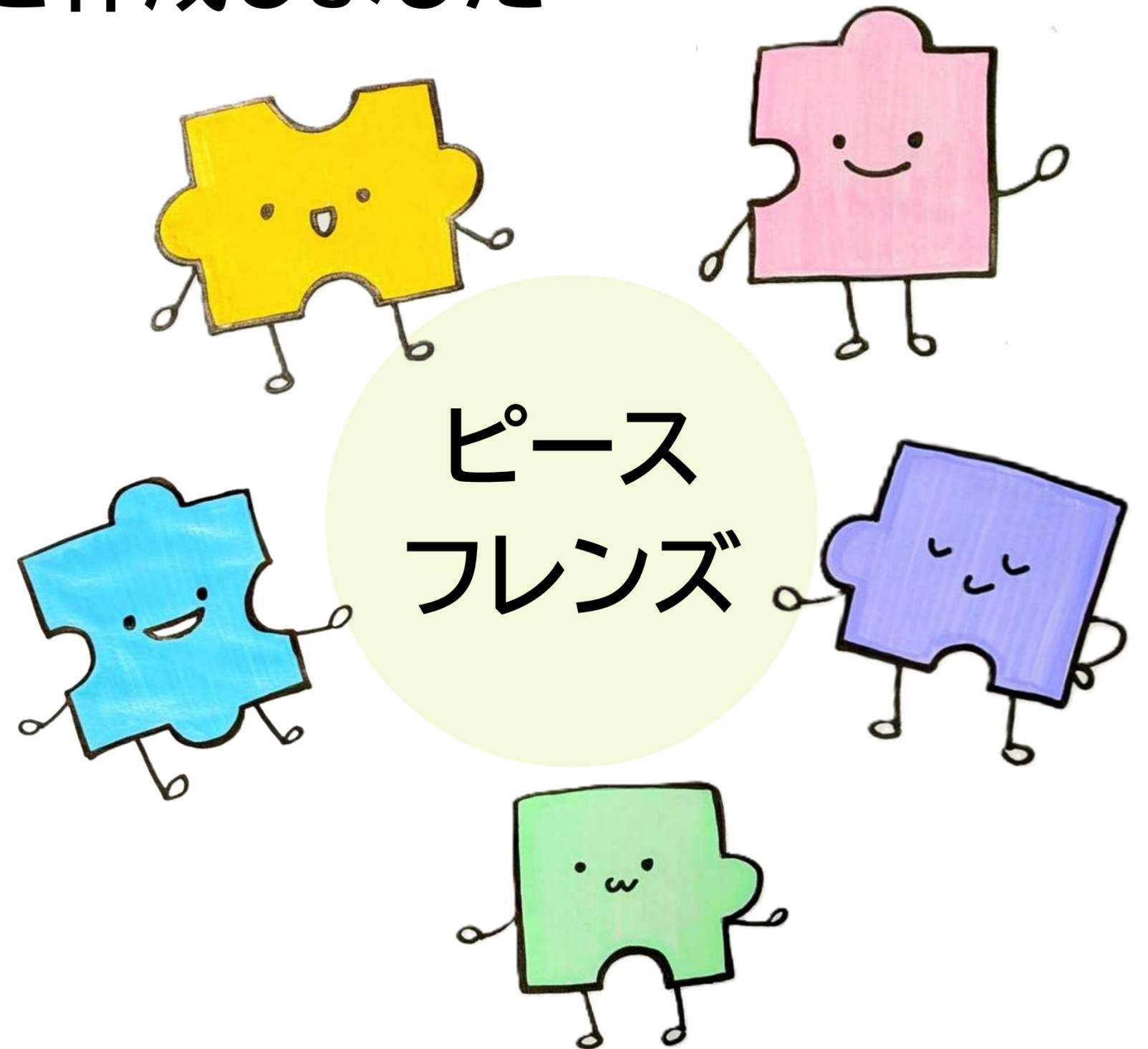


**長野県社会福祉協議会の  
福澤さん、高橋さん、鈴木さん、山崎さんに  
ご協力していただきました！**

# ノベルティとキャラクターを作成しました



ノベルティ



# 第1弾 ボランティアを「知る」会

開催日:8月7日(水)

目的:ボランティアとはどのようなものか、  
イメージをつかんでもらう

内容:①ボランティアについてのお話

②ボランティアのイメージや好きなこと、  
好きでやっていることのワークショップ



# 第1弾 アンケート結果

(1) わからないことや不安なことが解消された

はい:12 いいえ:1 特になし:2

(2)「一歩踏み出せない」と感じる理由(複数回答)

「新たな環境に緊張」7

「参加者との接し方がわからない」2

「内容がわからない」7

「その他」(開催日が土日が多い、

「交通手段がない」3

平日は授業や予定がある)

(3)今後ボランティアに参加したいか

はい:15 いいえ:0

(4)ボランティアに対するイメージの変化はあったか

はい:13 いいえ:0 わからない:2

# 第1弾 感想

- 自分や誰かの好きなことが、ボランティアに繋がることを知ることができた。
- ボランティア＝奉仕というイメージが強かったが、自分のやりたいことをきっかけにボランティアを始めても良いことを学び、ボランティアに対するハードルが下がった。
- 福祉のカテゴリーだけではないボランティアもあることを学んだ。

# 第2弾 ボランティアを「考える」会

開催日:11月12日(水)

目的:ボランティアに参加するきっかけや

ボランティアについて考え、共有することで

参加に繋げやすくする

内容:①ボランティア情報センターのメンバーによる、

ボランティア参加のきっかけ紹介

②哲学対話

～ボランティアと遊びの違いって?～



# 第2弾 アンケート結果

(1) わからないことや不安なことが解消された

はい:5    いいえ:0    特になし:0

(2) ボランティアに参加しやすいきっかけ(複数回答)

「自分の興味関心がある分野であること」5

「移動手段が確保されていること」4

「友人と一緒に参加できること」4

「情報があれば」1    「その他」(身近な先輩に誘ってもらおう等)

(3) 今後ボランティアに参加したいか

はい:5    いいえ:0

(4) ボランティア参加は有意義な経験か

はい:5    いいえ:0

## 第2弾 感想

- ボランティアの定義について考える良い機会になった
- ボランティアについて考えを共有する時間は初めてで、良かった。
- 色々な人のボランティアへの想いを聞くことができて楽しかった
- 自分の参加理由(友人に誘われた)が不純な理由だと思っていたが、みんなと同じで安心できた

# 第3弾 ボランティアと「繋がる」会

開催日:12月17日(水)

目的:災害ボランティアやボランティアマップ作りを通して、  
長野県や上田市近辺に実際にあるボランティアを  
知ってもらい、参加に繋げる

内容:①長野県社会福祉協議会の方による災害ボランティアの  
体験談の共有  
②付箋ワーク  
～ボランティアマップを作ろう!～  
③ボランティア紹介会



# 第3弾 アンケート結果

(1) わからないことや不安なことが解消された

はい:9 いいえ:1 特になし:2 無回答:1

(2) ボランティア情報を得やすい手段(複数回答)

LINE、その他SNS(Instagramなど) 6

ポータルサイト、チラシ 5

説明会など(対面) 3 その他(友人知人からの紹介、サークル活動)

(3) 今後ボランティアに参加したいか

はい:13 いいえ:0

(4) ボランティアを知る機会となったか

はい:12 いいえ:0 わからない:1

# 第3弾 感想

- 災害ボランティアは力仕事や動くイメージだったが、裏方でもできることがあるとしれて良かった。機会があれば参加したい。
- 災害ボランティアはハードルが高いと感じていたが、意外と参加しやすいことがわかった。
- 自分の知らないボランティア分野を知ることができ、今後も自分のボランティアの範囲を維持しつつ、ボランティアの輪を広げていきたいと思った。
- 周りの人たちが参加している、自分が知らなかったボランティアについて知ることができて良い機会になった。

# 目次

1. ボランティア情報センターとは
2. 信州上田学の活動の目的
3. 信州上田学の活動の報告
- 4. 信州上田学の活動から得られたもの**
5. 今後の展望

- ボランティア参加に繋がらない要因として、交通手段の問題だけではなく、「内容がわからない」「新たな環境に緊張する」などがあることに気づいた
- 自分の興味関心と合った分野であることで、よりボランティア参加へのハードルが下がることがわかった
- 他の人とボランティアに関する話を共有し合う機会が時には必要であることがわかった
- ボランティア=福祉 だけではないということをさらに伝えていく必要があることに気づいた

# 成果として

- 「ボランティアを知って・考えて・繋がる会」を通して、ボランティア参加につながった。
- 学生がボランティア情報を得るものとして、新たに「ボランティアマップ」を作成することができた
  - ボランティア情報を得るだけでなく、学生同士が繋がることのできる新たなツールを創出することができた

# 目次

1. ボランティア情報センターとは
2. 信州上田学の活動の目的
3. 信州上田学の活動の報告
4. 信州上田学の活動から得られたもの
- 5. 今後の展望**

## 【明らかにになったこと①】

- ボランティアに参加したいと思っている学生はいるが、活動の内容がよくわからないために参加に繋がらない

## 【今後取り組むべきこと】

- 各ボランティア先の詳細な活動情報がわかるような情報発信や説明会等を行う
- 実際に参加したことのある学生の話を知ったり、発信したりする機会を設ける

## 【明らかにになったこと②】

- 「ボランティアと一緒に行く仲間がほしい」「既にあるコミュニティに入りづらい」といった意見が多かった

## 【今後取り組むべきこと】

- ボランティアに参加するための”繋がり”を学生間で強くしていくために、より多くの人ボランティアに関心を持ってもらえるよう働きかける

例)特技ボランティアとして募集をする など

- ボランティア活動に参加する前に「事前顔合わせ」の機会を設ける

## 【明らかとなった課題】

学生は福祉以外の分野の情報も求めているが、ボランティア情報センターでは福祉分野以外のボランティア情報をあまり持っていない

## 【解決策として】

「ボランティアマップ」を活用し、より多様なボランティア先を紹介できるような体制を整える

## 【残された課題】

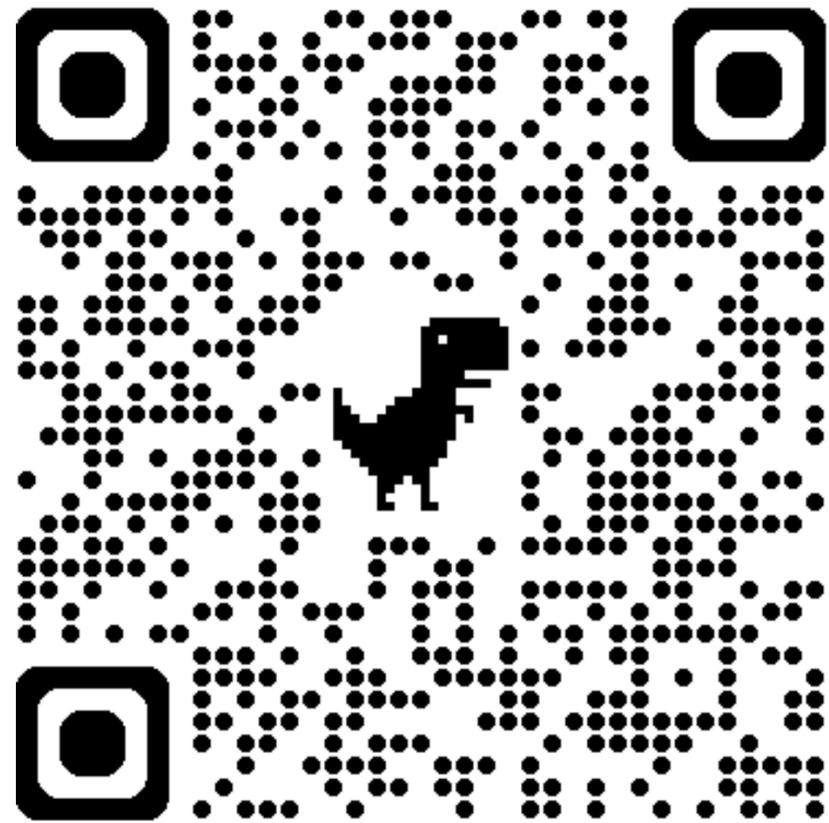
他学部(環境ツーリズム学部、企業情報学部)の学生のボランティア意識醸成があまりできなかった

## 【今後取り組むべきこと】

効果的な情報発信や参加に繋がる働きかけの方法を考える

ボランティア＝社会貢献に繋がること、やりがい、楽しさ、魅力をより伝えられるような活動をしていく

# ご清聴ありがとうございました



〈Google サイト〉



〈Instagram〉